



林 声

2014

9 月号



芳井町林業研究会の岡 良徳さん（左）と田中昭治さん（右）です。井原市芳井町西三原地区は管内でも有数のマツタケの産地です。かつてはマツタケと一緒によく採れていたホンシメジを地域の特産品として復活させるため人工栽培に取り組んでいます。（詳細はP 2に記載）

目 次

岡山・森林列伝（岡 良徳さん）	2	技能講習会、イベント情報	11
がんばる認定事業体（板坂林業）	3	林産物市況	12
普及指導区の情報（倉敷支部）	4		
緑の雇用研修がスタートしました	5		
林研グループ交換研修会の開催について	6		
専門研修報告会	7～8		
研究だより（CLTについて）	9		
お知らせ	10		

岡山県マスコット
(ももっち)



岡山・森林列伝
【井笠普及指導区】



一 はじめに

今回は、井笠普及指導区管内唯一の指導林家の岡 良徳さん（75歳）を紹介します。

岡さんのお宅は、井原市芳井町西三原の山間部にあり、北は高梁市、西は広島県に接する管内の最北端に位置する過疎化の進む集落です。岡さんの所有する森林の多くは広島県の神石高原町にあるそうです。

二 地域林業のリーダーとして

岡さんは、昭和33年に高校を卒業後、家業の農林業に従事され、若い頃は、芳井町内の木材業者に松の伐採の手伝いに行くことも多かったそうです。

昭和61年からは、西三原地区マツタケ研究会の会長、平成2年度からは、「きのこ名人」として地域の特産林産物であるマツタケなど野生きのこの発生環境整備に積極的に取り組むとともに、先進技術の導入・普及に努められています。平成9年には、岡山県指導林家に

認定され、林業技術の普及啓発林業後継者の育成に努めるとともに、普及指導協力員として林業普及指導員と連携しながら保育のついでに研修会等において、森林・林業の普及啓発についての指導を行っていたかっています。

平成18年からは、芳井町林業研究会の会長として、グループ活動の運営と会員への林業技術やマツタケ増産技術の指導に積極的に取り組むなど、長年にわたり地域の林業の振興に努めてこられました。

三 ホンシメジ人工栽培の取り組み

かつてはよく採れていたホンシメジを地域の特産品として復活させるため、芳井町平成15年からホンシメジの人工栽培に取り組んで



芳井町林業研究会の皆さん

きました。平成16年には栽培技術講習会を開催し、取木苗によるホンシメジ菌の人工接種など先進技術の導入を積極的に行ってきました。

また、平成20年からは、森林研究所の栽培技術の実証試験に所有するアカマツ林を試験地として提供するとともに、森林研究所と連



H22年に発生したホンシメジ

携して自らホンシメジ菌感染苗木を植栽するとともに、種菌と一緒に植え込まれた苗木を移植する「二段ポット苗木法」など新たに開発された人工栽培技術の導入に積極的に取り組み、平成22年には、試験地において初めてホンシメジの発生に成功しました。本年度から

は、会員の所有林においてもコナラ菌付き苗木を植栽し、実証実験に取り組んでいます。

四 おわりに

岡さんは、林業研究会の会長を今年3月に田中昭治さん（64歳）へ交代されましたが、今後も地域林業の活性化のためホンシメジが地域の特産物となるよう人工栽培技術の導入に積極的に取り組んでいきたいとのことでした。

当普及指導区としても管内唯一の林研グループである芳井町林業研究会の取組を支援していきたいと考えています。

（林業普及指導員 武用康男）



特集

がんばる認定事業体
株式会社板坂林業の紹介
【勝英普及指導区】

一 はじめに

「株式会社板坂林業」は、美作市豊国原に事務所を置き、地元美作市を中心に県北部の鏡野町や近隣の鳥取県南部・兵庫県西部地域を事業区域とし、森林の保育施業や間伐・皆伐、森林作業道の開設などを行っています。

代表取締役社長の板坂秀人氏（55歳）に今後の展望や取組等について、お話を伺いました。



取材を受ける板坂社長

二 インタビュー

◆(株)板坂林業の概要について

板坂林業は、昭和50年4月、父

親の新太郎が創業し、素材の生産・販売などの事業を家族で始めました。当時、長男である私は、大阪で調理関係の職に就いていました。荒廃ぶりを見て、これではいけないと奮起し、27歳の時に調理関係の職を辞めて、今の会社の経営に加わりました。

平成18年10月には、会社を法人組織にして、現在5名のスタッフと共に森林所有者から喜ばれる丁寧な施業の実施を心がけています。



社員の皆さん（左から）高橋さん、中島さん、加藤さん、池上さん、愛犬のちーちゃん

◆現在の事業活動の状況は？

平成25年度は、公社造林地や国有林を中心に、年間約3,000立方メートルの素材を生産し、約

8,000m（路線数5線）の森林作業道の開設を行いました。また、私有林の森林整備では、地域の森林組合とも連携して小規模な山林を集約化して間伐等を実施しています。



美作市内での搬出間伐作業

◆今後の事業展開について

当社の丁寧な施業などが各地域の森林所有者の方々に認められ、年々施業の依頼が多くなったことから、今後は経営の軸足を私有林の森林整備に移行していきたいと考えています。適切な施業を行うことにより、森林所有者に利益の還元ができ、かつ、当社の運営が継続できる事業収益を得ることを目指しています。

今後の目標としては、次の3点に取り組みたいと思います。

まず、一点目は、高性能林業機械を計画的に導入していきたいと考えています。計画的に導入することにより、安全性や生産性が向上し、森林所有者にも低価格での施業提案が可能となります。

二点目としては、最新のGPS測量機器の導入です。現在はポケットコンパスとハンディタイプのGPSにより測量等を行っています。当社が導入しているGISとの連携が図られ、地形図データとして森林所有者への施業提案を行うことが可能になります。

三点目は、施業技術の伝承を行うための人材の育成です。当社のスタッフは平均年齢が23歳と若く、経験不足による失敗も多々あります。このため、林業作業士などの各種資格の取得、研修会への参加、職場内研修などを通じて、日々自己研鑽に努めます。

三 おわりに

低迷する森林経営の中で、高い志を持ち認定事業体として頑張っておられる板坂氏は地域の牽引役としての期待も大きく、活動への支援を行いたいと考えています。

（林業普及指導員 木村正三）

普及指導区の情報「倉敷普及指導区」
**「真備タケノコの生産振興」と
 「県産材需要拡大」の
 取組について**

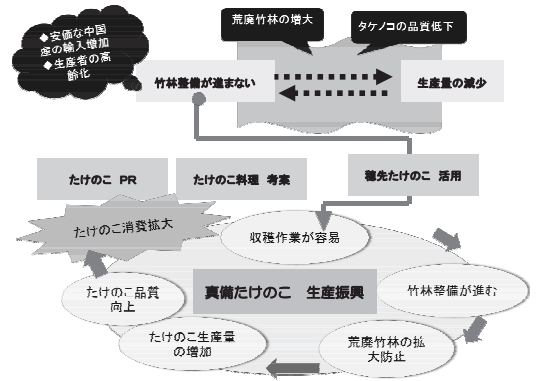
一 はじめに

倉敷市真備地区での「穂先タケノコ」を活用した竹林整備の取組については、本紙2014.3月号で紹介したところですが、その後、取組に関わった関係者が集まり、活動成果の報告会が本年3月に行われたので、その内容をお知らせします。

また、当指導区の重点項目である県産材需要拡大の推進についても取組の一部を後半で紹介します。

二 「真備タケノコの生産振興」の取組について

穂先タケノコの活用は、昨今の安価な中国産タケノコの輸入や生産者の高齢化によるタケノコ生産の減少と荒廃竹林の増大への懸念から、この状況を改善していくため、平成23年度から3年間、倉敷市が主体となり、真備筍生産組合・JA岡山西・若竹生活交流グループ等との連携により、備中県民局事業調整費を活用し、実証的に取



真備たけこの生産振興（フロー図）

り組んだものです。

報告会では、生産者側、流通者側から、「荒廃竹林をこれ以上増やさない点で穂先タケノコ（以下「穂先」と表記。）の活用は有効な手段となる」「穂先の柔らかい食用部位は限られており、膝丈までのサイズが適寸」「根っこ（赤いプツプツ）ない穂先も、品質によっては普通タケノコと同様に受入が可能」等の意見がありました。

穂先は食用の歩留りは決して良いものではなく、皮剥ぎ処理も意外に時間を要する等に留意する必要があります。今年のように、タケノコが豊作の年には、穂先にまで手が回らない実態も伺われました。

3年間の取組をまとめた成果集も披露され、普及指導員の立場からは、真備地域の竹林所有者、タケノコ関係者への配布を優先し、地元からタケノコ振興の気運が上がるよう助言しました。



活動成果の報告会 (H26年3月7日開催)

三 「県産材需要拡大」の取組について

本取組では、特に、公共施設への県産材利用を促進させていくため、県産材需要拡大会議において、市町関係者らと意見交換を行い、利用上の課題を挙げてもらいました。「防火規制等により木材利用が困難」、「鉄筋コンクリートの方が耐震性に優れ、耐用年数も長い」等の意見があり、木造化におけるコスト面、性能面でのメリットを

更に明瞭で分かりやすいものにしていく必要性を再認識した会議となりました。

しかし、保育園や介護施設等では、内外装、机・イス、遊具等に木材を使用する事例も広がっています。背景には、補助事業の活用とあわせ、学校・福祉施設関係者の間で、木の良さが口コミで広がっていることや、施工業者が営業の切り口として木材利用をPRしていることが主な要因と考えられます。

木材利用の取組を浸透させるため、今後も、県産材の普及PRに努め、継続的な支援を行って行きたいと思えます。



保育園での木材利用事例

（林業普及指導員 難波武博）

緑の雇用「林業作業士 (フォレストワーカー)」 研修がスタート

一 はじめに

6月第3週を皮切りに12月第1週までの約6ヶ月間に及ぶ緑の雇用「林業作業士（フォレストワーカー）」集合研修（実施主体・岡山県森林組合連合会）がスタートしました。県農林水産総合センター普及推進課林業普及推進班は、間伐等の森林整備部門を中心に担当しています。

今年度は、就業1年目が29名、2年目が16名、3年目が13名計58名で、年齢は18歳から54歳で、平均年齢は32歳です。

この研修は平成15年度から始まり、ここ3カ年では平均約50人が研修を修了しています。この成果として、全国統計では、35歳未満の若年者の割合は平成12年は10%でしたが、平成22年は18%と上昇しており、確実に林業従事者の育成に結びついていると言えます。

二 研修内容

この研修の目的は、林業の新規



就業2年目の研修
(間伐の設計方法)



就業1年目の研修
(伐木作業)

就業者に対する林業の基本的な知識、技術・技能の習得です。

研修は、①刈払機やチェーンソーのメンテナンス等の現場管理部門、②森林調査部門、③造林、育林、間伐等の森林整備部門、④チェーンソー伐倒、造材、集材等の素材生産部門⑤無災害の推進等と幅広く、「林業」という業の下で、森林を適正に管理するために必要な知識、技術・技能を身に付けることがで

きます。

さらには、次のような安全講習を受講して、現場に必要な資格取得ができます。

- ・ 普通救命講習
- ・ 刈払機取扱作業員に対する安全教育
- ・ 伐木等の業務に係る特別教育
- ・ 車両系建機運転技能講習
- ・ 玉掛け技能講習
- ・ 小型移動式クレーン運転技能講習
- ・ 不整地運搬車運転技能講習
- ・ ショベルローダー等特別教育

三 研修を担当して

これらの研修は、各分野の専門の方が講師として行われています。研修を担当してみても、やる気の



ワイヤースプライス研修

ある前向きな研修生が多いことに感心しました。特に、実務に直結する場面においてはより積極的な姿勢が伺えます。例えば、道具・資材のメンテナンスで、ワイヤースプライスに取り組んだ研修生が「家に帰ってもう一度やってみよう」と練習用ワイヤー1本を持って帰りました。

四 おわりに

今回は研修内容を紹介しましたが、緑の雇用事業にかかる支援内容については、研修全般を担当している岡山県森林組合連合会までお問い合わせください。

なお、その担当者からは「林業技術の習得は一朝一夕ではできませんが、集合研修では林業について幅広い体験ができます。林業の奥深さ、面白さを感じてもらい、安全作業の重点的な指導により、長期就業に繋がるよう心掛けていきます。」とのコメントをいただきました。

この研修を受講された方が、地域林業を支え、地域の活性化の核となることを期待しています。

(普及推進課林業普及推進班)

林業研究グループ交換研修大会が開催されました

一 はじめに

「お久しぶり、お元気でしたか？」の会話が始まる、年に一度の県下の林業研究グループが集まる「交換研修大会」が、7月9日に奈義町内で開催されました。参加者は、12グループ46名で、旧交を温めるとともに、前向きな元気をもらう一日になったのではないのでしょうか。

二 グループの活動発表

グループの活動発表として、美作林業経営研究会の春名明会長から「山里の活性化を目指して〜未利用材の活用と未来へ引き継ぐ森づくり〜」と題して活動報告がありました。

高齢化が進む中、会則を変更してまで会員確保に努め、カキいかだ丸太の搬出



グループ活動発表の様子

から販売、鬼の搬出プロジェクトに関わる取り組みなどが報告されました。

三 全国研修会の参加報告

その後、全国の研修会に参加されたお二人から報告がありました。まず、「全国林業リーダー研修会」に参加された真庭森林・林業研究会の小出純平氏からは、「真庭地域には若い仲間が自分の周りにいてまだ恵まれている。全国では後継者以前の問題で、集落に人自体がいなくなる状態が進んでいる。」「地域にしつかりと腰を据えて仲間と一緒に、仕事と地域を担う活動を行いたい。」と力強い言葉が聞けました。

次に、「全国林業女性学習のつどい」に参加された富原婦人林業研究クラブの戸田温子会長からは、「講演に来られた講師の方が元氣一杯で、講演後の懇親会も参加して、楽しい時間を過ごすことができ、たくさんの鋭気をもらった。」とのことでした。

四 各グループから活動報告

参加している各グループの代表の方から順番に活動報告がありました。限られた時間の中での特色ある幅広い活動が報告され、まだまだ

だ元気な地域のリーダーがおられることを改めて認識させられました。

五 現地研修(その一)

午後からは、奈義町高円にある豊並樹苗生産組合が取り組むコンテナ苗の生産現場に伺いました。

このマルチキャビティコンテナを利用して作る苗は、裸普通苗に比べて植栽時期を選ばない等の植栽作業効率の向上と省力化が期待されているものです。特に、伐採・搬出に使う車両系機械を活用して、伐採・搬出、地拵え、植付を連携して同時に行う『一貫作業システム』を実践していくには欠かせないものです。

苗畑では、組合長の長畑州三氏からコンテナ苗の特徴などの説明を受け、コンテナ専用の植栽器具を使った植栽体験も行いました。



コンテナ苗の研修の様子

六 現地研修(その二)

最後に、奈義町上町にある『叩き彫』昭雲工房を訪問しました。

この叩き彫は、棟方志功氏が、初代山田昭雲氏のノミを金槌で叩いてコンコン刻む姿を見て命名したとのことです。

そのような作品があふれる工房で、三代目山田尚公氏から叩き彫の歴史や木材と作品についての説明があったのち、地元奈義町産のスギの木を使った叩き彫の実演を見させていただきました。



叩き彫の実演

七 おわりに

今回の研修会場に富原婦人林業研究クラブが作った「くず新芽茶」の紹介と試飲があり、好評でした。また、司会進行は森の大使の二人により行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。

来年もこの研修会に参加すればますます元気になる、楽しみだ、といわれるような企画にしたいと考えています。

(普及推進課林業普及推進班)

★お知らせ★

林業普及指導員「専門研修報告会」を開催

平成26年8月1日(金)、岡山衛生会館(岡山市)において、県下の林業普及指導員及び森林研究所研究員等が出席し、「専門研修」の成果の発表を行いました。この研修は林業普及指導員が自主的に最新技術や最新情報の習得等に取り組み、その成果を共有することで県全体の普及指導活動のレベルアップを目的に実施しています。



熱気あふれる会場内の様子

○専門研修報告

一 森林経営部門課題

森林施業の集約化、路網整備、高性能林業機械の導入等による林業生産性の向上

森林・林業の施策において重要なテーマである本課題に取り組んだ森林経営部門では、実践的に普及を行うため2つの目標を設定しました。

①高性能林業機械の導入による生産性向上のための資料作成

②丈夫で簡易な森林作業道の路網選定(路線計画)に係る普及資料作成

これらの資料作成にあたり、林業事業体を訪問し、作業システムや工程管理の現状を調査することで、標準的な「作業日誌」様式を作成しました。また、同様に、作業道の作設状況も調査をしたうえで、資料を作成しました。これらの資料を活用して、早速に指導を行った普及指導区もあります。

二 施業技術部門課題

ナラ枯れ被害に係る諸調査および被害を受けにくい森林づくり

県内のナラ枯れ被害は、県北での被害区域の拡大が懸念されています。このため、「おとり丸太駆除法」や「被害を受けにくい森林づくり」に向けた調査・検討を行いました。「おとり丸太駆除法」では健全なミズナラを伐採し、その場でシイタケ等のキノコを植菌し、穿入するカシノナガキタイムシ(以下「カシナガ」という)についてナラ菌の繁殖を抑制し、カシナガの成長阻害を狙ったものでしたが、キノコ菌糸の伸張速度が思わしくなく、実用的ではないと判断されました。また、「被害を受けにくい森林づくり」では直近の成長量と萌芽量との相関関係について、文献で書かれているような伐採前の生育がよいほど萌芽が旺盛であるといった結果を得ることは出来ませんでした。しかし、この研修を通し、ナラ枯れ発生のしくみを観察できたことは、今後のナラ枯れ対策の普及活動に活かしているものと考えています。

三 林産部門Ⅰ課題

「岡山甘栗」植栽木の管理方法

県森林研究所が開発し、産地化

を進めている「岡山甘栗」の課題に取り組み、産地のさらなる育成を図るため、植栽地の追跡調査や栽培歴の作成に加え、接ぎ木実習や植栽実習、収穫量調査等を実施しました。また、24年度に作成した「岡山甘栗防除暦」、「岡山甘栗の育て方」などの普及資料の改訂を行いました。こうした栽培者や現地のニーズに対応した使いやすしい普及資料が作成できたため、今後の普及活動に活用していきます。

四 林産部門Ⅱ課題

県産材製品の消費者ニーズの把握と生産者への普及資料検討

県産材の需要拡大に向けて本課題に取り組み、24年度に行った川下側の工務店など153社へのアンケート結果を分析し、調査に協力があった工務店等へその結果を回答しました。また、このアンケート結果を踏まえ、川上側である製材所へのアンケート作りを行いました。この作成に当たっては、2社の製材工場を訪問し、情報収集を行いました。これをもとに、川上側へのアンケート調査を行い、その結果をフィードバックし、川

上と川下が情報を共有し、川上・川下間の円滑な流通の活性化に繋げていきたいと考えております。

○試験研究成果報告会

専門研修の成果報告に続き、研究者と普及指導員の情報交換を目的として、森林研究所の林業研究室と木材加工研究室からそれぞれ1題ずつの試験研究成果報告がありました。

一 林業研究室

フェラーバンチャ機能付きバケツットによる森林作業道作設計システム・・・片桐研究員



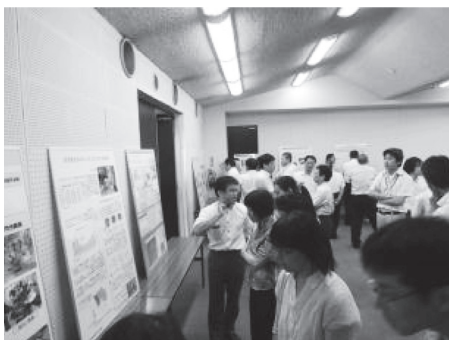
研究員からの研究報告

二 木材加工研究室

岡山県産構造用製材材スパン表の作成・・・小玉特別研究員

○ポスターセッション

続くポスターセッションでは、前述の試験研究成果報告に加え、現在森林研究所において取り組んでいる研究内容10題のポスターの前で、担当の研究員が内容を説明するとともに、普及指導員の質疑に対して回答を行っていました。今回のように、研究員と普及指導員との情報交換の場を設けることにより、現場におけるニーズを伝えることができたため、実務レベルに近い研究課題が生まれること



ポスターセッションでの意見交換

が期待されます。

○各普及指導区からの情報提供

各普及指導区から地域の特性を生かした活動の情報提供がありました。



岡山普及指導員からの説明

- (岡山) 企業の森づくり〜木づかい推進事業
- (東備) 地域特性に応じた普及活動
- (倉敷) たけのこの生産振興と県産材需要拡大
- (井笠) 教育関係機関との連携による森林環境教育の取組について
- (高梁) 「風ぐるまフェスタ2013 in うかん」における森林のPR活動

- (新見) 森林環境教育等への支援
- (真庭) 県産材の需要拡大対策と木質バイオマス資源の活用
- の推進について
- (津山) 漁業と連携した森林整備の取組について
- (勝英) 「岡山甘栗」産地化への取組及びツキノワグマ被害防止対策について

○おわりに
会場では、各報告の内容に対して多くの質問が出されるなど熱心な議論が交わされました。また、普及指導員の知識や技術力のレベルアップにおいても有意義な機会となりました。

(林政課 普及指導班)



熱心に質問をする若手職員

研究だより 「CLT」について

一 CLTとは

近年、木材用語として「CLT」という言葉を良く耳にします。これは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着したパネルのことで、1995年頃からオーストリアを中心に発展した新しい建築用資材です。(写真1)

積層枚数を変えることで、様々な厚みのパネルに加工でき、断熱性、耐火性及び強度が高い材料とすることが出来ます。さらに、工場であらかじめ裁断や開口加工を行っておけば、建築現場では簡単に組み立てられ、工期の短縮も可能となります。



(写真1)

二 CLTの現状について

日本では、CLTを活用した建物として高知県大豊町の3階建ての集合住宅(写真2)があります。



(写真2)

また、岡山県でも真庭市役所前バス待合所(写真3)でCLTを現して使用しており、小スケールながらも、大きな開放感を生み出しています。さらには、今年度中に当研究室の隣の敷地に、大豊町と同様の集合住宅が建設される予定です。欧米では、中・大規模のマンションや商業施設等での使用が増加していますが、まだ日本での実績は非常に少ない状況にあります。

このため、国においても、CLTを広く普及することを目的として、平成25年12月に「直交集成板」

日本農林規格(JAS)を制定しました。また、一般的な構造部材として用いるためには建築基準法における基準強度等が必要となるため、制定に向けたデータ収集等に取り組んでいます。



(写真3)

三 今後について

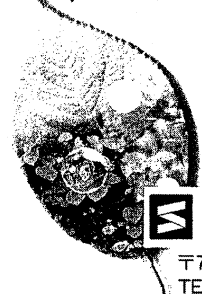
CLTは、床面積あたりの木材使用量が多く、導入が進むことで木材の活用幅が広がり、本格的な利用期に入るスギなどの国産材需要の拡大が期待できます。

「伐って、使って、植えて、育てる」という循環型林業を行っていくためには、県産のスギ・ヒノキなどの新たな需要の開発とあわせて、供給できる体制作りも重要であると思われまます。

(農林水産総合センター)

森林研究所木材加工研究室

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造元 **森産業株式会社**

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
TEL 岡山(086)805-7033(代)

★お知らせ★

★ツキノワグマに遭わないために

ツキノワグマによる被害の防止に向けて、県民の皆さんへお願いです。県内に生息するクマは、県の北東部の森林を主な住みかとしています。しかし、秋から12月上旬にかけては、冬眠に備えて食べ物を求め、人家近くに出没することがあります。

被害を未然に防ぐには、クマと遭わないことが一番です。家の近くにクマを引き寄せないようにするため、クマの餌となる生ゴミなどは放置しないでください。また、集落に、収穫しない柿や栗の実がある場合は取り除いてください。

また、クマと出合う可能性が最も高まるのは早朝や夕方です。山に入る際には、鈴を鳴らしたりラジオをつけるなど、音を出してクマに人間の存在を知らせるようにしてください。ただし、「音を出しているから安全」という訳ではありません。沢などで鈴の音がクマに届かない可能性もあります。常に注意を怠らないようにしてください。

もし、クマと遭遇したら、落ち着いて行動することが大切です。遠くにクマを見つけたら、静かにその場を離れましょう。クマが近づいてきたら、クマの動きに注意しながら、背中を見せないようゆっくりと後退してください。大声を出したり、石を投げてクマを刺激することは危険です。また、子グマと出会っても近づかないでください。子グマのそばには必ず母グマがいます。万一、クマに襲われた場合は、地面に伏せて身を守る姿勢をとりましょう。

（環境文化部自然環境課）



★森林国営保険が（独）森林総合研究所へ移管されます

「森林国営保険法の一部を改正する法律」が平成26年4月9日に可決・成立し、4月16日に公布され、これまで国が実施してきた森林国営保険は平成27年4月1日から独立行政法人森林総合研究所（以下「森林総研」）に移管されることになりました。

移管時点において有効な契約は、そのまま森林総研に引き継がれ、契約の補償内容に変更は生じません。

森林保険は、森林所有者自らが大不慮の災害に備える唯一のセーフティーネットであり、重要な公的保険です。移管後も、法律に基づいて国が関与していくこととなっておりますので、引き続き森林国営保険及び移管後の森林保険をご利用いただきますようお願いいたします。

（移管に関するQ&A）

（Q）なぜ、森林総研に移管することになったのですか。

（A）政府が取り組む行政改革の一環で、国の業務のスリム化等の

ため、森林保険業務を国以外の機関に移管することについて検討されてきました。

この結果、森林保険は、国の一定の関与が措置されれば、国自らが実施主体となることは必ずしも必要ではなく、また、森林総研は、森林・林業分野で唯一の独立行政法人として森林災害に関する研究開発を業務とし、森林の自然災害に関する専門的知見を有することなどから、森林保険業務の移管先とされたところです。

移管時点で有効な契約は森林総研に自動的に引き継がれ、特に、必要な手続きはありません。

森林は、台風、豪雪、山火事などの災害にあつ危険があります。

これからも森林保険に加入しましょう。



（治山課 造林班）

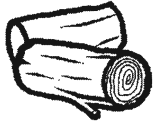
技能講習会の開催(10~12月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

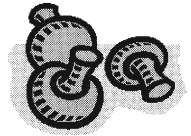
名称	会場	日程	申込・問合せ先
小型移動式クレーン運転	岡山	11月13, 14日	(社)岡山県労働基準協会 TEL (086) 225-3571
玉掛け(未経験者対象)	岡山	10月9, 10日 11月1, 2日 11月6, 7日 12月4, 5日	
移動式クレーン運転士		11月7日	中国四国安全衛生技術センター TEL (084) 954-4661

森林・林業関係イベント参加募集

開催日時	場所	行事名称・内容	問合せ・申込先等
9.21(日) 9:00~12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第173回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 TEL: 0866-62-8614
9.27(土)	高梁美しい森(高梁市松山)	「森づくり勉強会」森の健康診断 (詳細は、問合せ先まで)	NPO法人フォレストフォーピープル岡山 〒716-0038 高梁市浜町 1285-1 TEL: 0866-22-1000
10.11(土)	高梁美しい森(高梁市松山)	キノコ・ウォッチング 高梁美しい森周辺に自生する「キノコ狩り」 (詳細は、問合せ先まで)	NPO法人フォレストフォーピープル岡山 〒716-0038 高梁市浜町 1285-1 TEL: 0866-22-1000
10.19(日) 9:00~12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第174回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 TEL: 0866-62-8614
10.19(日) 10:30~14:30	岡山県立森林公園 (鏡野町羽出及び上斎原)	岡山県散る森林公園自然観察会 (秋)	岡山県立森林公園管理センター TEL: 0868-52-0928 FAX: 0868-52-0936
10.25(土) 10:00~14:30	グリーンヒルズ津山 (津山市大田地内)	第15回森林を考える岡山県民のつどい	森林を考える岡山県民のつどい実行委員会事務局 TEL: 0868-32-2140
11.1(土) 10:00~12:00	おかやま共生の森・井原 (井原市西江原町)	保育のつどい 広葉樹林整備(除伐)	井原市森林組合 TEL: 0866-72-0161
11.2(日) 8:30~16:00	岡山市北区建部町田地子地 内山林 ほか	森林体験バスツアー 下刈り・木工・しいたけ狩り体験 (小学4年~中学生)	「未来へつなぐ森林体験実行委員会」 事務局: 岡山市農林水産課 TEL: 086-803-1345
11.22(土) 9:30~	総社市下倉地内	森林整備の集い(除伐・枝打ち) しいたけ原木等の伐採	倉敷地域森づくりの会 TEL: 0866-92-5600



林産物市況



木 材 (8月20日)

出荷材積

約 1,100 m³

単位：千円/m³

樹種	長さ	径 級	直 材	小曲り	樹種	長さ	径 級	直 材	小曲り	杉概況	全体的に横這い
杉	3m	14~16	12.5	8	檜	3m	14~16	18.5	14	小径材	横這い
		18~20	12.5	8			18~20	18.5	14	柱 材	横這い
		22~28	12	10			22上	16.5	13.5	中目材	横這い
	4m	18~22	12	10~		4m	16~18	17.5	9~	桧概況	全体的に横這い
		24~28	12	10~			20~22	15.5	14	小径材	横這い
		16~18	15	10			24~28	16	15	柱 材	横這い
松	3m	18~22	10	8	6m	14~16	28	22	中目材	横這い	
	4m	18~22	10	10		18~20	28	22	松概況	横這い	

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値。

製 材 (8月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安値~高値	備考
ス ギ	正角3m 10.5cm 角	特 等	K	55,000 ~ 61,000	
	正角3m 12cm 角	特 等	K	55,000 ~ 59,000	
ヒノキ	正角3m 10.5cm 角	特 等	K	65,000 ~ 70,000	
	正角3m 12cm 角	特 等	K	60,000 ~ 65,000	
マ ッ	平角4m 10.5 ~ 12cm×15 ~ 18cm	一 等	K	65,000	
米マツ	正角3m, 4m 10.5cm 角	特 等	G	56,000	
	平角3m, 4m 10.5×15 ~ 21cm	特 等	G	56,000 ~ 58,000	
北洋アカマツ	タルキ4m 3.8cm 角	特 等	K	70,000 ~ 75,000	
ホワイトウッド	間柱3m 2.7cm×10.5cm	特 等	K	55,000 ~ 58,000	国内挽

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。

—— 安全・人と自然・調和 ——

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕 **コニファー水和剤** 〔幼令樹保護カバー〕 くわんたい
 〔樹皮食い防止に〕 **バークガード** 〔野生草食獣食害防止〕 **防獣ネット**
 〔クズ専用除草剤〕 ザイトロン・ザイトロンフレノック・ケイピンエース
 〔樹幹注入剤〕 センチュリーエース ★新発売★マッケンジー注入剤
 (お問い合わせ申し込みは県森連・森林組合へ)

販売元：口植アグリ株式会社
 TEL：086-292-5525

大同商事(株)大阪営業所
 TEL：06-6231-2819




緑豊かな自然を守る


治山・林道事業の普及啓発、技術援助
 治山・林道の調査、測量、設計、積算
 森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会


岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
 津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

『特別共販日のご案内』 岡山県森林組合連合会 

開催日	特別共販名（開催共販所）
9月12日	備後・備中地域優良材特別記念市（新見）
10月15日	真庭産優良材品評会特別記念市（勝山）
	加茂地区木材組合特別記念市（津山）
	新見地区木材まつり（新見）
11月10日	第26回岡山県 民有林優良材展示コンクール（津山）
	12月19日 真庭原木買方組合特別記念市（勝山）



新見・勝山・津山 各共販所への出材をよろしくお願ひします。（毎月3回開催）



「緑の募金」

ご協力をお願いします

募金期間

春のみどりの月間
4月1日～5月31日

秋のみどりの月間
10月1日～10月31日

緑の募金でふせごう地球温暖化

口座振込は
こちらへ

ゆうちょ銀行 01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店 1852041
トマト銀行岡山駅前支店 1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット

間伐材利用植生マット

間伐材利用生分解型植生マット

間伐材利用生分解型植生シート

間伐材利用植生シート

グリーンフォーマット
〔切土軟岩用〕



森樹郎マット
〔切土土砂用〕



森樹郎マット21
〔切土土砂用〕



張りウッド
〔盛土用〕



ハリシバモック
〔盛土用〕





「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎（シンキロウ）マット工法」

太陽と緑の国づくり
Nihon 日本植生株式会社
<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>
津山支店 / 津山市高尾 573-1 TEL (0868) 28-0256
岡山事務所 / 岡山市北区芳賀 5325 TEL (086) 294-1000

サンケイの松くい虫防除薬剤

多目的使用（空中散布・地上散布）ができる

スミパイン® 乳剤・MC
積れる松枯れ防止用散布剤

モリエート® SC
ナラ枯れ予防用樹幹注入剤

ウッドキング® SP

伐倒木用くん蒸処理剤

キルパー® 40
伐倒木除菌剤

パインサイド® S油剤D
樹幹注入剤


グリーンガード® ファミリー

お問い合わせは最寄りの県森連・森林組合へ



サンケイ化学株式会社
大阪市淀川区西中島4丁目5番1号 TEL (06) 6305-5871

平成二十六年九月一日 (第四三七号)
(隔月一日発行)



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
<http://www.yamatoya-net.com>
大阪営業所 津山営業所 水島営業所

安心と信頼の証を届けます



創業以来、永年に渡り体育器具・遊具を製作してまいりました。地元メーカーとして責任ある製品作りに取り組み、安心と信頼を皆様にお届けします。

日本体操協会器械器具検定工場・日本公園施設業協会認定工場

OHKUBO 大久保体育株式会社

■本社 〒703-8214 岡山市東区鉄409 TEL (086) 279-0585 FAX (086) 279-0460
■倉敷営業所 〒710-0312 倉敷市藤戸町天城1021-1 TEL (086) 428-7576 FAX (086) 428-6153
■東京営業所 〒201-0003 東京都江戸市和泉本町1-21-1(201) TEL (03) 5761-9577 FAX (03) 5761-9587



CT-500B・GP-532 小型ハイパワープロセッサ

shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL (0868) 23-2255
<http://www.mitsuyoshi.com/>

編集 発行
〒700-8750 岡山県林政課内 岡山県林業改良普及協会
岡山市北区内山下二一四一六

FOREST INSURANCE

森林 国営保険



加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
加入期間は？ 1年単位で何年でも！
保険金がでるのは？
火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。
岡山県では過去5年間で10億円以上の保険金が支払われました。


ご契約のモデルケース (1ha あたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年
保険期間…5年 保険金額…最大188万円
一括払いだと 21,225 円 (5年間計)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年
保険期間…5年 保険金額…最大299万円
一括払いだと 37,375 円 (5年間計)


1ヶ月あたり
約 350 円

わずか缶ビール
1本分



1ヶ月あたり
約 620 円

わずかラーメン
1杯分



- 保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。
- 条件によって契約金額が変わってきます。
- ご相談は、最寄りの森林組合、県民局(森林企画課)・地域事務所(地域森林課)の窓口へどうぞ。

岡山県農林水産部治山課 電話番号 086(226)7455 (直通)



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。(間伐材10%+古紙70%)

